

会 議 録

審議会等名	平成18年度 第1回 生涯学習推進会議		
公開の別	全部公開		
開催日時	平成18年8月30日(水) 午後2時～3時55分		
開催場所	三条市役所 栄庁舎 3階 中会議室	傍聴者	なし
出席	丸山委員、坂井委員、内藤委員、長田委員		
	横山委員、村田委員、稲庭委員、梨本委員、田中委員		
	桑原(良)委員、山浦委員、堀委員、小林委員、鈴木委員		
欠席委員	神子島委員、佐藤委員、木津委員、長崎委員、三巻委員、桑原(晴)委員		
教育委員会	松永教育長、阿部教育次長、金子生涯学習課長、原生涯学習課長補佐		
	近藤生涯学習係長、遠山主事		
議 題	(1) 生涯学習推進計画基本構想(案)について		
発言内容等			
田中会長	<開会のあいさつ>		
松永教育長	<教育長あいさつ>		
金子課長	<p>会議に入ります前に、新年度になり、委員の交代がありましたので、その報告をさせていただきます。名簿10番、三条公共職業安定所からの選出の風間武さんにかわりまして長崎一郎さんです。なお、長崎さんは本日ご欠席です。あと、事務局でも人事異動による交代がありましたので、ご報告させていただきます。生涯学習係長につきましては、笹川係長から近藤係長になりました。</p>		
近藤係長	<自己紹介>		
金子課長	<欠席委員について連絡>		
田中会長	本日いただいたご意見は、事務局でまとめていただき、会長である私と事務局でやり取りをして次回の推進会議で提案申し上げるという進め方にしたいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、議題に入ります。事務局説明をお願いいたします。		

金子課長	<資料1、2「生涯学習推進計画 基本構想」について説明>
田中会長	いかがでしょうか。
丸山委員	2ページ下から5行目「向上の」について、「の」はいらないと思う。
村田委員	1ページで中央教育審議会答申について記載がありますが、こういった内容でしたでしょうか。
田中会長	中教審答申で、「生涯教育」が「生涯学習」に置き換えられたわけではないのでは、とのことかと思いますが、事務局はいかがでしょう。
金子課長	中教審答申は標題が「生涯教育について」となっていますが、文章中で「生涯学習」という言葉も使われています。
田中会長	ポールラングランは「life of education」といっており、それを日本語で「生涯教育」と訳したと聞いています。それが、議論される中で、「教育」とは為政者の立場で言われることであり、学習者本人の自由な意思が尊重されるということでは「学習」のほうがふさわしいのではないかと思います。
村田委員	「生涯教育」から「生涯学習」になった経緯を記載することで、生涯学習の大切さも説明できるのではないのでしょうか。また、5ページのVの2の(4)で「地域の自主的な交流」とあるが、意味を説明していただきたい。
金子課長	地域の人々が交流して、自主的に地域を作る活動を「学習」として支援したいということです。
田中会長	生涯学習についての市長の考えを、平成17年度施政方針内に見つけることができました。地域コミュニティについて、うたっています。その文言が、構想の中に見つけれないと私も事務局に確認したところ、現在策定中の総合計画では「地域コミュニティ」ではなく「まちづくり」という施策のくくりになっているようで、そのように読み替えると分かりやすいかと思います。地域の人々が地域のために、地域をどうするかを考える拠点作りのための交流だと思います。範囲は小、中学校区単位で考えていると思いますが、ちなみに県内では柏崎市は2、30年前から地域コミュニティについてうたっており、また長岡市では中央公民館1つ以外は地区公民館をすべてコミュニティセンターにしています。私は、こんな風に考えていましたが、事務局はいかがでしょう。
金子課長	そのとおりだと思います。総合計画の中で、「コミュニティ」ではなく、

	「まちづくり」という文言を使っているため、生涯学習推進計画でも、
	「まちづくり学習」とさせてもらっています。
丸山委員	4 ページの基本施策の家庭教育のなかで、「子育て活動推進」とあるが、 どういった意味でしょうか。
金子課長	核家族化が進んでいるが、孤立感を感じながら子育てをすること等が無い よう、悩み相談や交流の場を設けること等の体制を整備することです。
田中会長	親の子育て活動サポートですね。民生委員の立場から、山浦委員さん、ご 意見いただけますでしょうか。
山浦委員	今の親はしつけができないのでは。おじいちゃん、おばあちゃん世代は上 手だから、それを大事にしてほしいです。
桑原（良） 委員	生涯学習がボランティアに関係していることを初めて知りました。家庭教 育にもボランティアを関係させてはどうでしょうか。
堀委員	今の親は、細かなことでも人と違うことを気にするので、相談できる体制 が必要と思います。そのことを示していると思いましたが、表現がわかりに くいと思います。
梨本委員	子どもにとって家庭は非常に大事なものなので、高齢者も積極的に関わる べきであると思います。
金子課長	ワーキングチームでの子育て支援室の意見として、施設整備を含まないで 活動に限定したいということで、この文言となりましたが、わかりにくいと いうことなので、検討したいと思います。
田中会長	事務局の宿題としていただきたい。
長田委員	異世代交流も含めてほしいのですが。
田中会長	学習成果の活用とありますが、高齢者は長く生きてこられたこと自体が、 色々なことを身につけてきた、学習してきたということで価値があるのだから、 異世代交流ということでそれを生かせることは、非常にいいことを言っ ていただいたと思います。
小林委員	4 ページのVの1の（1）「家庭の教育力の向上」について、これは、し つけ的な「教育」でしょうか、それとも学問的な「教育」でしょうか。
金子課長	「しつけ」的な意味合いです。
内藤委員	家庭の教育力について、父親のかかわりが薄い状態ではないでしょうか。 ちなみに、公民館推進員は実質的にあまり機能していないと思われることか

	ら、生涯学習推進員に変更してはどうでしょうか。また、学区同士の連携も大切だと思います。
田中会長	幅広いお話がありました。学校の立場から、横山委員さん、お話いただけますでしょうか。
横山委員	確かに、以前とは家庭の教育力は変わってきていると思います。学校、家庭、地域とありますが、それぞれができることを話し合うことが大切ではないでしょうか。どういった場でそれができるのか、難しいことだと思いますが。
田中会長	学校評議員が教育課程の策定に関わってはいらっしゃいませんか。
横山委員	教育課程策定までは、関わっていません。行事に参加いただいて、ご意見をいただいています。
田中会長	職員会議の際、地域の方が参加して意見を出されてはいかがでしょう。
横山委員	いじめ対策委員会で地域の方にご参加いただいております。
田中会長	家庭教育については、以前は家庭の問題ということでしたが、社会教育法が変わったことにより行政が関わることとなったと思います。さて、そんな中、食育が教育に取り入れられています。坂井委員さんいかがでしょう。
坂井委員	昔と比べ今の子は体力がないと思います。朝食を含めしっかり3食とることが大事だと思います。
横山委員	大島地区は食育推進の指定地区になり、果物栽培についてや栄養士さんのお話を伺う機会があり、子供の食に対する理解が進みました。
坂井委員	食べることも大事だが、メニューも大事です。
村田委員	食育を計画の各論の中でどのように出すかが大事ではないでしょうか。
小林委員	昨今は、父親が優しくなりすぎて、しつけができなくなったと思う。
稲庭委員	私の周りに同居の方もいらっしゃいますが、私自身も核家族ですので、家庭の教育力向上のための取り組みは、しっかりと行う必要があると思います。
田中会長	以前とは就業形態が変化して、両親共働きが普通となっているような社会全体の変化があることも考えていく必要があるかと思います。
鈴木委員	今の親はしつけの仕方が分からず、甘やかすことが多くなったのでは。
長田委員	夫婦二人だけの視点になってしまうことが問題ではないでしょうか。大切な他の人の意見を、自然に取り込むことができるような、交流できる場所が

	必要ではないでしょうか。
内藤委員	来年度から文部科学省が放課後教室事業を行うが、これに人材バンク登録者や地域の方等色々な人が参加し、子どもと交流すると良いのではないのでしょうか。
小林委員	放課後、児童館に子供が行くが、老人の管理士を設置し、しつけ等が自然に行えるようにしてはどうでしょうか。
金子課長	内藤委員さんの言われた放課後子どもプランを三条市も実施予定で、それは、地域の大人がボランティアで、地域の子供の面倒をみる形態を考えておりますので、小林委員さんが言われるような、職員が行うことは考えておりません。地域の方に行っていただく方向で進めるのが、行政の立場・役割ではないかと思えます。
田中会長	子どもが安心・安全に過ごせる空間を、地域の人が協力してつくるという趣旨ですね。時間のこともありますので、全体を通して、ご意見はありますでしょうか。今までのご意見を伺っていると、大筋は問題なく、端々の文言等で若干ご意見があるというところでしょうか。
村田委員	本日の意見を今後の計画へしっかりと反映させることが問題だと思えます。本日の構想については、大筋良いと思えます。3ページの4つの視点が、資料2の体系だと体言止めになっており、こちらのほうが良いと思えます。視点の4番は若干表現を変更するといいいと思えます。
小林委員	大筋結構と思えます。6ページ(3)の「人材バンク」とは何でしょうか。
稲庭委員	総合計画等上位計画との整合性はいかがでしょうか。
金子課長	人材バンクは、公民館等の講座等の講師の方でご承諾いただいた方を、冊子にまとめているものです。上位計画との整合性につきましては、上位計画の内容を含ませておりますので、施策は矛盾しないように考えたいと思えます。
内藤委員	総合計画にも「まちづくり」の記載があり、これが生涯学習推進計画では「まちづくり学習」に当たると思うが、これを推進するために、青少年育成関係の委員等がどんな活動をしているかを、次回会議でお示しいただければ、検討するための材料になるのではないのでしょうか。なぜかという、教育関係はもちろん、それだけでなく、商工関係、地域の青年団体関係、老人クラブ等の活動を確認し、連携を検討することも大切だと思うからです。

田中会長	<p>建設的で多様な意見が多数出てよかったです。ボランティアを生かすこと、地域活性化のために協力いただける他の民間の力があるのではないかと、世代間の交流を子育てに生かすこと、家庭の教育力のためには食育が大切なこと。また学校と地域のこと。学区というコミュニティのこと等。皆さんの経験があるからこそその意見だと思います。ところで、私の意見も述べさせていただきます。3ページのⅢの4「学習成果」とありますが、テストの点数や資格等顕在化しているものもありますが、顕在化していないもの、例えば、三条の鍛冶の技術や農家の人たちの作物を作ることによって身につけた忍耐力等、それこそ人間力といえるものと思いますが、これに注目することが大切だと思います。次回は、今回の話を踏まえ修正した構想と計画案を提示いただくと良いかと思えます。</p>
横山委員	<p>5ページの(4)「まちづくり」の中の「地域の自主的な交流の促進」はわかりにくいので、文言を修正してはどうでしょうか。また、ボランティアを(5)に入れてはどうでしょうか。</p>
小林委員	<p>しつけ、道德教育、マナーについて、どこかに入れられないでしょうか。</p>
松永教育長	<p>家庭の教育は、生活習慣を身につけさせることだと思います。家庭だけでなく学校、地域それぞれの立場の人が協力して、家庭教育活動を推進することで、結果的に人とのつながりの中で、忍耐力や道德心も芽生えてくるのではないのでしょうか。</p>
稲庭委員	<p>人材バンクを学校支援ボランティアとして利用してはどうでしょうか。</p>
横山委員	<p>この冊子は学校にも届いており、時々利用しています。</p>
鈴木委員	<p>市民にこの計画を含め、よく周知をするべきではないでしょうか。また、人材バンクについては、例えば農業等メニューを広げてはどうでしょうか。あと、使いやすいように集落等への配布を検討してはいかがでしょうか。</p>
田中会長	<p>文言等含め市民にわかりやすい計画にすることが大切ということですね。</p>
横山委員	<p>2ページの2の「計画の位置づけ」の「民間教育事業者」とは。</p>
金子課長	<p>カルチャーセンター等です。</p>
田中会長	<p>多数のご意見が出されましたが、教育長さんいかがでしたでしょうか。</p>
松永教育長	<p>お忙しい中お集まりいただき、お礼申し上げます。今回は構想でしたが、今後は計画というより具体的な課題に入って行くわけですが、ご理解・ご協力をいただきながら、だれでも、いつでも、どこでも学習ができる場を提供</p>

	できるよう取り組んでまいりたいので、よろしくお願いいたします。
田中会長	皆さん自身のお言葉で、実に活発に意見が出ました。合併してよかったと思えるような計画を策定できると良いかと思えます。ありがとうございました。
金子課長	次回は10月頃を予定しております。ありがとうございました。

3時55分 閉会